



学校だより

わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

No.12

令和7年6月26日

㊦くわく㊦がやく子 ㊦なび合い㊦ながる子

☆「保護者アンケート」「児童アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

市の重点	保護者アンケートの項目	肯定的	児童アンケートの項目	肯定的
学力向上	⑧家庭学習の習慣	82.5	⑫家で予習・復習	65.0
			⑬家で学年×10分	76.0
	①わかりやすい授業	99.2	④授業はよく分かるか	96.3
	②適切な評価	98.4	③しっかり話を聞いているか	95.7
不登校 対策	⑨楽しく通っているか	94.6	①学校は楽しいか	95.7
	⑩学校のことを話す	84.8	⑧家で学校のことを話すか	88.4
	⑤気軽に相談できる	97.7	⑥困ったことを相談できる	90.5
	④安全・防災の取組	99.2	⑦いじめはいけないと思う	99.4
非認知	③おもいやりの教育	98.4	⑨なりたい職業や夢がある	82.6
	色つきは、肯定的な回答が低かった項目		⑩自分にはよいところがある	86.3
			⑪学校のきまりを守っている	93.6
			⑤友だちの気持ちを考える	93.6
			⑭家の手伝いをしているか	80.5
地域連携	⑦保護者・地域と連携	98.4	⑮地域行事に参加	85.2
	⑥情報発信	98.4		

保護者・児童アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。2つのアンケートの共通点は「家庭学習の定着」でした。また、「学校のことを家庭で話す」や「相談できる」もやや低くなっていました。相談できる関係づくりに努めていきたいと思ひます。低学年と高学年の肯定的な回答割合を見ると、次のようになっていました。

⑫家で予習復習 低67.8% 高64.0% ⑬家で学年×10分 低79.3% 高73.7%

⑧家で話す 低86.2% 高90.2% ⑥困ったことを相談 低94.2% 高87.3%

小学校段階で、宿題の他にご家庭でまず始めていただく学習としては、その日に習った教科の教科書を読みかえすことや「今日はこんなことを習ったよ」とお家の人に話することから始めていただくと思ひます。その日のうちに教科書を読むと記憶が定着しやすくなり、言葉で習ったことをアウトプットすると学習内容を振り返ることになるからです。一度、お試しくささい。

おおきちゅうがっこう　がつ　にち　かかんていき　きかん　む　はっしん
大木中学校は、6月18日(水)から3日間定期テストでした。テスト期間に向けて発信された
がくしゅう　いちぶ　しょうかい　かていがくしゅう　ていちゃく　かか　かてい
学習についてのプリントから一部を紹介します。「家庭学習の定着」と関わって、ご家庭で「なんで
べんきょう　はなし　きかい
勉強するのだろう・・・」といったお話をこの機会にしてみてください。

大木中の資料より

「勉強する意味、答えられますか？」

保護者の回答から考える、子どもに伝えたいことと注意点

「どうして勉強しなきゃいけないの？」とお子さまから質問されたことはありませんか？

答えに困ったり、答えてはみたものの、正しく伝えられたのか悩んだりすることもあるでしょう。

「勉強する意味」は、子どもにどう伝えればよいのでしょうか。全国の保護者から寄せられた声を、解説や注意点と共にご紹介します。勉強する意味に、もちろん正解はありません。どのような意味を感じるかは、人それぞれです。ここでは、小・中学生の保護者が実際にお子さまに伝えた「勉強する意味」を、小学校教員経験を持つベネッセ教育総合研究所・庄子主任研究員と共に見ていきます。

○将来の選択肢を広げるため

・自分が将来やりたいことを見つけるにあたって、選択肢を増やすため。自分が何に興味を持つかを探す手段として勉強をする。(中 3 保護者)

<庄子主任研究員> 「将来の選択肢を広げる」というのは、実は私自身も、子どものころ母に言われて腑(ふ)に落ちた説明でした！ 選択肢があるということは、それだけ自分の思う人生を歩んでいきやすいということ。未来の自分のためになるのです。勉強は保護者や先生のためではなく、自分のためにするものだというスタンスを明確にすることにもつながると思います。

※ その他「考える力や問題解決力、学び方を身に付けるため」「人生を豊かに、楽しくするため」「実生活で役立つため」「できないと不利益があるため」などの項目がありました(省略)。

○勉強する意味を伝える時、大切にしたいこと

現在はさまざまな技術が発展したことで「この教科ができないと生きていけない」といったケースは、もしかすると少なくなっているのかもしれませんが、だからこそ、「選択肢が広がる」「人生が豊かになる」といった、知識そのものの役立ちだけにとどまらない意味を伝えることが大切です。

ただし、どんなにいいメッセージでも、すぐに子どもが「わかった！」と納得するわけではありません。考えの押し付けになっては聞く耳を持たないでしょうし、保護者のかたが言っていることとやっていることにギャップがあると感じれば、反発をすることもあるでしょう。庄子主任研究員は、二つのスタンスが重要だと話します。

○保護者も学び続けている姿を示す

どれだけ言葉を尽くして「勉強の意味」を語ったところで、十分に伝わらないこともあります。有名な「メラビアンの法則」によると、言語情報はわずか 7%しか相手に影響を与えないとされています。そこで大切になるのは、保護者も学ぶ姿勢を見せられているか、ということです。「勉強は自分のためになるよ」と言いつつ、自分は時間ができればスマホばかり……では、説得力がありません。もちろん無理をする必要はありませんが、保護者がポジティブに学びを楽しむ姿を見せることは、実はすごく重要なポイントだと思います。

○押し付けず、子どもと対話する

一方で、「必ず勉強しなくてはいけないわけではない」という姿勢を示すことも大切です。どれだけ勉強の意味を伝えても、どれだけ保護者が学ぶ姿勢を見せても、どうしても勉強が苦しいなら、今はやらなくてもいいというのもアリです。そうでないと、保護者の価値観の押し付けになってしまいます。勉強の意味は伝えるけど、絶対勉強しなければいけないと考えているわけではない。そんなおらかさも子どもの救いになるものです。「勉強はいったん置いておいて、得意なことをさらにがんばる時間にしよう」など、お子さまと対話を重ねていけるといいですね。

ベネッセ教育情報(ベネッセ教育総合研究所)より引用<一部抜粋>